

学校教育目標	自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、心身ともにたくましい子どもの育成
育成を目指す資質・能力	自ら考える力(表現力・他者理解力)の育成

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・全国学力・学習状況調査結果より、知識及び技能は各教科正答率は高い。思考力、判断力、表現力等では、国語「読むこと」物語文が課題。 ・各教科を通して、記述式の問題で、根拠を教科の言葉で説明することが不十分。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・1日当たり読書をする時間は全国平均より多いが、読書が好きと肯定する児童は全国より低い(△2.8p)。 ・社会へ出たときに教科の学習が役立つかという意識調査では、国語・理科に比べ算数を回答する割合が低く、全国の意識と相違がある。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・国語は、話し方の工夫や物語文・説明文の読解にやや課題がある。授業で表現活動を制限した影響がある。 ・算数は、基礎は定着している。何を学ぶのか課題を認識して学習ができているが、説明力に個人差が大きい。 ・理科は、基礎は定着している。授業では観察・実験をできる範囲で取り入れたが、内容の理解と結び付いていない児童がいる。また、日常生活との結び付きが弱い。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・各授業で、解決すべき「課題」を児童と一緒に作り、毎時間振り返りを行った。前半の研修を終えた段階で、全学年が同じように取り組むことは難しいとの意見が出され、各学年の発達の段階に応じた課題設定や振り返りの方法を考えていく方向に修正した。この取組により、児童が学習内容をメタ認知するスキルが上がり、学習意欲が高まった。 ・振り返りにICTを活用し、授業後の記録を児童・教員で共有できるようにした。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・スキルタイムの有効活用…月・木の朝の活動で、期間を決めて全校で文章読解問題に取り組ませた。 ・家庭学習の徹底…「学年×10分+10分」を学年通信や学校からの調査及び報告等で呼びかけ、各家庭への情報提供を行った。調査の結果より、目標時間を意識して学習に集中する児童もいたが、学年によって差があるという実態が分かった。 ・学級の実態に応じた指導の工夫…学力向上支援の非常勤講師や補助教員等の活用で、児童の状況に応じた個別指導・支援を適宜行った。	

学力に関する達成指標

- 国語算数の評価テストの平均点 全学年1学期80点以上、2学期85点以上。
- ・自分の考えをまとめ、表現することのできる児童 80%以上。
- ・授業の内容が分かり、毎日の授業が楽しいとする強い肯定の児童 75%以上。
- ・毎日決められた時間の家庭学習に取り組むことができたとする強い肯定の児童 70%以上。
- ・家庭学習時間調査の達成割合「学年×10分+10分」 1回目60%以上、2回目65%以上。(昨年度2回目67.3%)

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の具体的な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 自ら課題を設定し、主体的に学ぶことができる子どもの育成 ～子どもたちが主体的に自分の考えを表現するための工夫を通して～	
	〈取組内容〉 ① 児童が自分で課題を見つけることのできる授業に取り組む。 ② 学習活動において、児童が自分の考えを表現するための手立てや表現方法を工夫できる授業に取り組む。 ※全教科、全校で取り組む。	〈家庭・地域の取組内容〉 ・家庭学習「学年×10分+10分」の確実な実施。 ・学年通信などを通して家庭に呼びかける。
	〈取組指標〉 ・全ての教員が年2回以上、課題設定場面と説明したり発表したりする場面を設定した単元(題材)の指導計画を作成し互見授業を行う。 ・全ての教員が年3回以上他の教諭の授業を参観し意見や感想を書いて提出する。 ・全ての教員が表現の手立てを考え、他の教員と共有する。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・各学年の家庭学習の目標時間以上を保護者に奨励し、年2回調査を行う。 ・各学年、年間1回以上ゲストティーチャー・保護者と連携した授業を行う。
	〈検証指標〉 児童に対する授業アンケートにおいて、 ① 課題設定の手立てを工夫することで、授業において自分で「課題」を見つけ学習に取り組むことのできる児童 80%以上。 ② 自分の考えをまとめ、表現することができる児童 80%以上。	
		【授業改善以外の学力向上の取組】 ① スキルタイム…語彙力を育てるための学習(プリント等)に全校で取り組む期間を設ける。 ② 読書指導…1人2冊借りるうち、1冊は読み物の本を借りるよう声かけをする。